

## 第212回（令和5年11月26日施行）

### 1 級原価計算・工業簿記

#### 第1問

従来通り「原価計算基準」の内容からの出題ですが、今回は二肢択一形式で出題しました。受験生は決して勘に頼った解答をせず、よく吟味して解答をしてほしいものです。またいつものことですが、単に「原価計算基準」を丸暗記するのではなく、基本概念を中心に理解してもらいたいものです。

1. 「原価計算基準」冒頭の「原価計算基準の設定について」からの出題です。206回に引き続いての出題です。

2. 「原価計算基準」四（一）2からの出題です。

3. 「原価計算基準」十六（二）からの出題です。

4. 「原価計算基準」二九からの出題です。

5. 「原価計算基準」三五（一）からの出題です。個別原価計算における仕損費の処理のうち、最も基本的なものを出題しました。

#### 第2問

製造業における仕訳の問題です。今回はすべて過去問題を参考に出題してあります。

1. 直接経費である外注加工賃に関する問題です。消費額は $\text{¥}987,000 - \text{¥}53,000 - \text{¥}42,000 = \text{¥}892,000$ となります。前払と未払が混在していることに注意してください。直接経費なので、仕掛品勘定へ振り替えます。類題としては、例えば、206回に同様の問題が出題されています。

2. 個別原価計算における仕損費の処理に関する仕訳問題です。第4問の個別原価計算の総合問題では、仕損費勘定を設けずに仕掛品勘定間の振替仕訳で処理させることが多いですが、本問では仕損費勘定を用いた場合を問うています。類題としては、例えば、197回に同様の問題が出題されています。

3. 工程別総合原価計算において、第1工程完了品の製造原価を第2工程に振り替えるときの仕訳問題です。最近よく出題される副産物や半製品などは無いので、平易な問題といえます。類題としては、例えば、194回に同様の問題が出題されています。

4. 部門別計算における第三次配賦手続きを予定配賦率で行う仕訳問題です。計算も平易なので、勘定連絡が理解できていれば難しくないと考えます。類題としては、例えば、186回に同様の問題が出題されています。

5. 標準原価差異のうち、能率差異の計上に関する問題です。能率差異の計算にはいくつかの異なる方法がありますが、今回は最もポピュラーである変動費と固定費双方から生じ

る場合を出題しました。標準直接作業時間と実際直接作業時間との差に標準配賦率を乗じて計算します。すなわち、 $(870 \text{ 時間} - 888 \text{ 時間}) \times \text{¥}1,200 = \text{¥}21,600$  の不利差異（借方差異）となります。類題としては、例えば、206 回に同様の問題が出題されています。

6. 本社工場会計の工場側の仕訳です。工場従業員に対する給与（賃金給料勘定）の支払い時の問題です。賃金給料勘定以外はすべて本社側にある勘定科目となります。類題としては、例えば、第 204 回に同様の問題が出題されています。

### 第 3 問

直接原価計算制度の場合の勘定記入に関する問題です。198 回で初めて出題しましたが、今回は 2 回目となります。今までは直接原価計算というと、損益計算書の作成と損益分岐点売上数量などを計算する問題しか出題されてきませんでした。しかし、直接原価計算といえども勘定間の振替関係を明確に理解することも重要であると考え、出題した訳です。

198 回では仕掛品勘定と月次損益勘定への勘定記入を問いましたが、今回は月次損益勘定への記入のみとしました。問題文の指示に従って解き、売上原価の計算を間違えなければ、8 割は取れる形にしたつもりです。本問のポイントは 3 つあります。

①まず、売上原価の計算がきちんとできたかどうかです。本問では 2,000 個の変動製造原価を計算することになりますが、月次損益勘定に振替えられるのは当月販売分の 1,800 個分であるという点に注意してください。仕掛品勘定や製品勘定を実際に書き出して考えるといいでしょう。

②次に、製造間接費の中の固定費の扱いに注意することです。直接原価計算では、固定費は製造原価計算から除外されるため、全額その期（その月）の期間原価として損益計算書に計上されます。一旦、製造間接費勘定に集計したのち、変動費は仕掛品勘定に振り替えますが、固定費は月次損益勘定に振り替えることとなります。

③最後に、販売費の振り替えに注意することです。販売費においても、変動費部分は貢献利益計算に組み込まれるので、振り替えも変動費部分と固定費部分を明確に分けて行う必要が生じます。こうしておいた方が、最後に月次損益計算書を作成するときにわかりやすくなると考えられます。したがって、問題の指示に従わずに販売費の固定費部分を先に振り替えた場合は、誤答とさせていただきます。

いずれにしても、今後このような形で再び出題されることもあると思うので、よく復習をしてください。

### 第 4 問

209 回に引き続き組別総合原価計算の問題を今回は出題しました。過去に出題されたものとほとんど同じ内容で出題してあります。今回は 186 回に出題した問題を参考にしました。

過去問題をきちんと理解していれば、やさしい問題であったと思うでしょう。

なお、今回は原価計算に具体性を持たせるために、日本酒と焼酎という具体的な製品を設定し、副産物として酒粕を登場させました。これで組製品の意味が多少なりとも理解してもらえることを期待します。